



東白川小だより

令和6年8月29日(木) №6

校長 桂川 辰也

「自分を出し切る」二学期に！

一学期の宝物発表で、6年生のJさん、Rさんが次の発表をしてくださいました。

みなさん、6年生の顔を見て気付くことはありませんか？

そうです。「**みんながマスクを外し顔が良く見えます**」よね。

(中略)

この生活を始めて良かったと感じたことが二つあります。

一つ目は「**お互いの表情が見えるから安心する**」ことです。相手がどんな表情をしているのかよく分かるので、一緒にいて、その気持ちを今まで以上に分かち合うことが出来るようになりました。目や声だけで相手の気持ちを考えるのとは違い、顔いっぱいの「喜び」「楽しみ」の表情を見ると、自然と気持ちも明るくなるし、学級の中で「**安心感**」が広がりました。

二つ目は「**声が大きくなった**」ことです。息をたくさん吸い込むことが出来るようになったので、大きな声を出しやすくなったし、お互いの声も聞き取りやすくなりました。

(後略)



学校の教育目標には「自分を出し切る」という言葉が入っています。全力で頑張る、粘り強く取り組む、諦めない等、色々な姿を想像されると思いますが、その中に「ありのままの自分をさらけ出す」という姿もあると思っています。

間違いや失敗を恐れず物事に挑戦するためには、「安心感」が不可欠です。

6年生の宝物をヒントに、今まで以上に「自分を出し切る」二学期を目指します。

城東小学校との交流(7/20)

今年度も、4年生が三重県桑名市の赤須賀港を訪ね、現地の城東小学校4・5年生と共に、干潟観察や学習会を行い、海と山の繋がりを学習しました。また、活動を通して、城東小の子どもたちともすっかり仲良くなりました。

赤須賀漁業協同組合の方には、干潟漁船に乗せていただいたり、シジミのお土産を沢山いただいたりするなど、本当にお世話になりました。



秋には城東小の子どもたちが東白川村にやってきます。